

BIGLOBE クラウドホスティング
サーバイメージ持込
ガイドライン

2.7 版

(2021 年 4 月 1 日)

ビッグローブ株式会社



1. 本ガイドラインについて

サーバイメージ持込機能をご利用いただくためのサーバイメージ構成ガイドラインおよびコントロールパネル機能動作状況を記載しています。

サーバイメージ持込の手順については、ご契約後にダウンロードいただける「サーバイメージ持込ご利用マニュアル」を参照ください。

持込に利用するサーバイメージは、お客様の責任にて作成をお願いします。また、弊社ではサーバイメージ作成についてのご支援はいたしません。

2. サーバイメージ構成ガイドライン

本機能をご利用するためのサーバイメージの構成について説明しています。サーバイメージは OVF ファイル(拡張子 .ova)形式でエクスポートされたものとしします。以下のガイドラインに沿ってサーバイメージを作成してください。

【ゲスト OS 種別】

項目	Windows	Linux
OS のバージョンとエディション	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2019 (64bit) Standard EditionWindows Server 2016 (64bit) Standard EditionWindows Server 2012 R2 (64bit) Standard EditionWindows Server 2008 R2 (64bit) Standard EditionWindows Server 2008 R2 (64bit) Enterprise EditionWindows Server 2008 (32bit) Standard Edition	<ul style="list-style-type: none">CentOS 6 (64bit)CentOS 7 (64bit)Red Hat Enterprise Linux 6 (64bit)Red Hat Enterprise Linux 7 (64bit)

- 標準提供以外の OS の種類・バージョンの利用について
標準提供以外の OS の種類・バージョンをインストールすることはサービス約款、BIGLOBE クラウドホスティング ユーザマニュアルに記載しております通り、当社のサポート範囲外となります。サーバイメージ持込機能をご利用の場合に限り、以下の留意事項をご了承の上、標準提供以外の OS を使用できます。
 1. 標準提供以外の OS の導入方法・ご利用については、非サポートとなります。
 2. 動作保証やトラブル時の復旧、お問い合わせ等は一切行えないことをご了承ください。
 3. 持込イメージおよび持込イメージから作成したサーバのご利用・動作内容およびその結果については、お客様が一切の責任を負うものとしします。
 4. 持込イメージ、持込イメージから作成したサーバが正常利用できなかった場合も、サーバイメージ保管料、サーバ料金が発生します。
 5. Windows Serverの持込については、本ガイドラインに掲載されているバージョン、エディションのみ可能です。Red Hat Enterprise Linux以外のLinux系OSを持ち込む場合、アップロード時のOS種別は「CentOS 6」を指定してください。

【仮想化基盤】

項目	Windows	Linux
OVF テンプレート作成環境	vSphere 5.X、6.X (X は任意のバージョン)	

【仮想マシンハードウェア構成】

項目	Windows	Linux
仮想マシンハードウェアバージョン	バージョン 11	
仮想マシンの OS タイプ	インストールされている OS と同じにすること	
CPU*	1vCPU(予約 0MHz、制限 2048MHz で制限無しのチェックが外れていること)	
メモリ*	2GB	1GB
HDD 仮想ディスクタイプ	～40GB : シン	
HDD ディスク数	1 (非独立型のみ)	
CD/DVD ドライブ*	CD/DVD ドライブが存在する場合は、以下の設定であること ・デバイスタイプ:「クライアントデバイス」 ・モード:「IDE パススルー(推奨)」	
仮想デバイスノード	SCSI(0:0)	
OVF ファイル	ファイル形式: OVA サイズ上限 : 40GB まで (Windows Server 2016 以降の場合は 100GB まで)	
SCSI バスの共有*	なし	
SCSI コントローラー	LSI Logic SAS	LSI Logic パラレル
NIC 種別	Windows Server 2008 R2 以前の場合は e1000 Windows Server 2012 R2 以降の場合は VMXNET3	CentOS 6、Red Hat Enterprise Linux6 の場合は e1000 CentOS 7、Red Hat Enterprise Linux7 の場合は VMXNET3
VMCI	無効	

- 表中に*印が記されている項目は、ガイドラインに沿わない構成でサーバイメージをアップロードされた場合でも、ガイドラインに沿った構成に自動的に変更されてイメージ登録されます。

【ゲスト OS の構成】

項目	Windows	Linux
ファイアウォール設定	ICMP および SNMP 通信が許可されていること	
ネットワーク接続名	「ローカル エリア接続」と「ローカル エリア接続 2」の二つが存在する	「eth0」と「eth1」の二つが存在する
Perl	OS 付属の純正のものがインストールされていること	
ファイルシステム		
VMware Tools のインストール状況	インストール済み(上記の仮想マシンのバージョンでインストールされているバージョン)で、仮想サーバ起動時に VMware Tools も起動するように設定 ※VMware Tools は最新版を推奨	
その他設定	<p>CentOS6、RHEL6 を持ち込む場合は以下のシンボリックリンクを作成した状態で OVF テンプレートをエクスポートすること(シンボリックリンクがない場合、通信ができなくなるため)</p> <p>事前に作成が必要なシンボリックリンク: <code>/etc/udev/rules.d/70-persistent-net.rules -> /dev/null</code></p> <p>CentOS6、RHEL6 を持ち込む場合は以下のパッケージをインストールした状態で OVF テンプレートをエクスポートすること</p> <p>https://cloudhosting.sso.biglobe.ne.jp/cp/main/help/device_mod-1.0-1.noarch.rpm</p> <p>https://cloudhosting.sso.biglobe.ne.jp/cp/main/help/route6_check-1.0-1.noarch.centos5.rpm</p> <p>CentOS7、RHEL7 を持ち込む場合は以下のパッケージをインストールした状態で OVF テンプレートをエクスポートすること</p> <p>https://cloudhosting.sso.biglobe.ne.jp/cp/main/help/device_mod7-1.1-0.noarch_pika6.rpm</p> <p>https://cloudhosting.sso.biglobe.ne.jp/cp/main/help/route_add-1.0-0.noarch_pika6.rpm</p>	

ご利用環境

- 以下の環境での動作を保証しております。
 - ・Google Chrome、Mozilla Firefox

ご注意事項

- **【重要】持込に利用するサーバイメージは、お客様の責任にて作成をお願いします。また、弊社ではサーバイメージ作成についてのご支援はいたしません。**
- 【仮想化基盤】に記載の環境で構築された OVF イメージのみ、サーバイメージ持込が可能なことを確認しています。
- サーバイメージの作成は VMware vSphere ドキュメントセンターの情報を参考に、OVF テンプレートのエクスポートを行ってください。

<http://pubs.vmware.com/vsphere-60/topic/com.vmware.ICbase/PDF/vsphere-esxi-vcenter-server-601-virtual-machine-admin-guide.pdf> (外部リンク)

- イメージから作成されたサーバに入っているアプリケーションのライセンスは、お客様で管理ください。
- Windows サーバのイメージから作成したサーバでは、Windows Update、DNS サーバ、NTP サーバの各設定は設定の内容に関わらず、BIGLOBE の既定の設定になります。ただし、Linux の NTP サーバの設定はお客様の設定がそのままご利用いただけます。
- OS のシャットダウン処理が正常に終了したサーバからサーバイメージを作成してください。異常終了したサーバから作成したサーバイメージを持ち込んだ場合、コントロールパネルからサーバの作成が出来ません。
- WindowsServer2008 の場合、Hyper-V が無効に設定されていることを必ずご確認ください。
- ファイアウォールの設定等、サーバのセキュリティ対策はお客様にて設定をお願いします。
- OVF テンプレートのエクスポート時にサーバイメージのファイル名として指定できない文字は以下の通りです。以下は OVF テンプレートのエクスポート元となる仮想サーバに定義されている NIC 名にも指定できません。
 - 2バイト文字、Windows でファイル名として許容できない文字
- WindowsServer を持ち込む場合、システム準備ツール(Sysprep)にてサポートしていない役割が構成された持込イメージからはサーバを作成することが出来ませんのでご注意ください。Microsoft 社の情報提供サイトをご参照ください。(参考 URL : <https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/hh824835.aspx>) 情報提供サイトにて「サポートされていません」となっている「サーバの役割」が構成された持込イメージの場合、サーバ作成を行うことができません。
- Red Hat Enterprise Linux を持ち込む場合、サーバイメージ作成元サーバの Red Hat サブスクリプションの有無にかかわらず、Red Hat サブスクリプションなしのサーバイメージとして登録されます。

制限事項

- 仮想マシン (VM) が複数含まれるサーバイメージは持ちこめません。(アップロード完了後、エラーとなります。)
- ファイルを分割した仮想ディスク (VMDK ファイル) を含むサーバイメージは持ち込めません。(アップロード完了後、エラーとなります。)
- 持込イメージおよび持込イメージで作成されたサーバについては、以下の機能をご利用いただけません。

持込イメージ	ナノモデルの作成
持込イメージで作成されたサーバ	グローバル IP アドレスなしのサーバを作成後、グローバル IP アドレスを追加
	基本ディスク拡張

3. コントロールパネル機能動作状況

作成した持込イメージおよび持込イメージから作成したサーバの動作確認状況をまとめた表です。下記をご確認のうえ、ご利用下さい。ただし、持込イメージおよび持込イメージから作成したサーバのご利用およびその結果については、お客様責任となります。

機能名 (サーバイメージ)		操作名	持込イメージの動作確認状況
サーバ機能	イメージ詳細	-	○
	イメージからサーバ作成	(ナノモデル)	×
		(ベースモデル)	○ (Linux の場合、お客様がお持ちの SSH 鍵をご利用ください。コントロールパネルにて作成した SSH 鍵は使用できません。)
	イメージ削除	-	○
	イメージ共有	共有・共有解除	○

コントロールパネル機能名(サーバ)		操作名	持込イメージから作成したサーバの動作確認状況
サーバ設定	サーバリソース変更	CPU	○
		CPU リソース優先	○
		メモリ	○
		基本ディスク拡張	×
		追加ディスク(D1、D2)	○
		ゾーン変更	○
	追加ディスク変更	切断・接続・料金プラン変更	○
	料金プラン変更	-	○
	サーバ操作	サーバ起動	○
		サーバ再起動・強制再起動	○
		サーバ停止・強制停止	○
		サーバ休止	○
サーバ削除		○	

コントロールパネル機能名(サーバ)		操作名	持込イメージから作成したサーバの 動作確認状況
サーバ設定	スナップショット	作成・リストア	○
	サーバイメージ	作成	○
	サーバ複製	-	○
	ディスク接続・切断	-	○
	IP アドレス追加	-	×
	保持 IP アドレス	IP アドレス保持・割当	○
	コンソール接続	-	○
ネットワーク・ セキュリティ	ロードバランサ	-	○
	ファイアウォール	-	○

BIGLOBE クラウドホスティング

サーバイメージ持込

ガイドライン

2.7 版 2021 年 4 月

ビッグロブ株式会社

2.7